

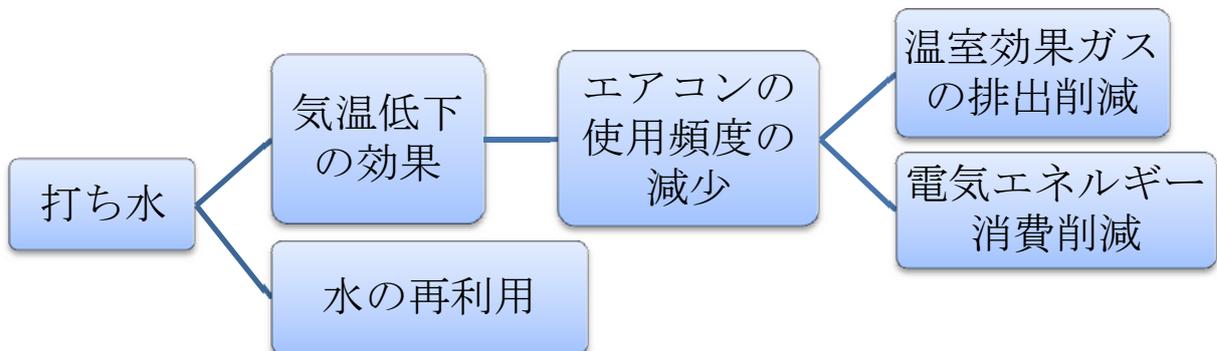


(1) 打ち水とは

玄関先や道路、庭などに水を撒く、昔からの日本の風習、またその撒く水のことです。埃を抑える効果があり、夏場には涼気をとるためにも行われてきました。打ち水によって涼しくなる理由は、気化熱によって地面の熱を大気中に逃がす効果があるためです。最近では都市部のヒートアイランド対策として見直されています。

(2) 打ち水で期待できる効果

打ち水は昔からの知恵ですが、私たちが暮らす環境は昔とはかなり変化しており、その環境に対しての効果・やり方については様々な説があります。そのため、現代の打ち水はまだ実験段階と言えるかもしれません。予測できる効果について下記の図にまとめてみました。



今回の企画では大学での実施のため、直接エアコンの使用が抑えられるということにはならないでしょう。しかし、打ち水を各々の家庭で行えばこうした効果はみられるかもしれません。また、打ち水には二次利用水（詳しくは裏面に）を利用するため、普段何気なく利用している水について改めて考えるいい機会です。打ち水を通して、環境問題についての意識を高めるきっかけになればいいと思います。

※ここに載せてあるのはかなり簡略化した情報です。打ち水の効果の仕組みや疑問、注意はHP『打ち水大作戦 <http://www.uchimizu.jp/>』の「打ち水の作法」「打ち水問答」などで詳しく説明されていますので、そちらをご覧ください。

打ち水を行う際の注意点

◇ 水は二次利用水を利用

水も大切な資源です。お風呂・シャワーの残り水、エアコンの室外機から出る水、雨水、台所のすすぎの残り水、米のとぎ汁、雑巾がけのすすぎ水、子供用プールの残り水などを利用しましょう。ただし衛生上問題のあるようなものは避けましょう。



◇ 道路に撒くのは×

安全のため道路に撒くのは避けましょう。特にカーブの途中、交差点、マンホールの上は自動車、自転車、バイクにとっては滑りやすくなるため大変危険です。



◇ 風通しのいい場所で、日陰にも

風通りが悪いと水蒸気がこもり、湿度があがって蒸し暑く感じてしまうかもしれません。また、日向より日陰のほうがゆっくり水蒸気になるので効果が長続きするといった説もあります。ただ、気分的にはよく晴れた日に日向で行うほうが涼しいかもしれません。

◇ 水たまりができるほど撒かない

撒いた道を通る人が靴やズボンを汚し、思わぬトラブルになってしまうかもしれません。水の量が少ないほうが気温を下げる効果が高いという実験結果もあります。道の色が変わるくらいにしておきましょう。

? 打ち水はいつ行うのがいいのか？

一般的に朝夕の日が高くない状態で行うのが好ましいと言われています。日の高い状態でアスファルトに打ち水しても、水はすぐに蒸発してしまい、気化熱による気温上昇の抑制効果が得にくく、湿度上昇で不快に感じるだけになってしまうからです。しかし、昼間に行ったが効果を得られた、とくに不快に感じなかった、アスファルトの場合昼間のほうが効果がある、などといった意見もあり一概には言えません。様々な状況で試してみてください。

<最後に>

打ち水で気温を下げるといってもやはり文明の利器エアコンにはかないません。少しの我慢はいいですが、身体を壊すまでの我慢はしないでください。ですがこの夏は、できる範囲でエアコンの使用を控えてみてはいかがでしょうか？

